

議案 1 2024 年度事業報告 (2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

日本気象学会は、定款第3条のとおり「気象学、大気科学等の研究を盛んにし、その進歩をはかり、国内及び国外の関係学協会等と協力して、学術及び科学技術、並びに文化の振興及び発展に寄与すること」を目的として、2024 年度も定款第4条で定める以下の事業を推進した。

- ・ 気象学、大気科学等に関する研究会及び講演会等の開催
- ・ 機関誌その他気象学、大気科学等に関する図書等の刊行
- ・ 研究の奨励、援助及び研究業績の表彰
- ・ その他この目的を達成するために必要な事業

I 気象学・大気科学等に関する研究会及び講演会等の開催事業の実施（公益目的事業 1）

気象学・大気科学に関する研究成果や最新の知見を、大会における講演発表、公開気象講演会、各支部における研究報告会並びに普及活動等を通じて社会に公表し、学術及び科学技術並びに文化の振興及び発展を図った。

1. 研究会等の開催

(1) 全国大会

春季並びに秋季に開催している全国大会は、会員等が研究及び調査の成果を発表する研究集会であり、2024 年度は以下のとおり開催した。各大会は講演企画委員会と担当機関内に設置された実行委員会が協力して、企画運営を行っている。春季・秋季大会の発表論文の予稿（要約を 1 ページに掲載）を全て掲載した「大会講演予稿集」（電子媒体）を、大会参加者に事前に配布した。

① 2024 年度春季大会

2024 年春季大会では授賞式・受賞記念講演現地開催およびオンライン配信で実施した。またシンポジウムとして「変わりゆく気候科学における数値モデリングの役割」を現地開催およびオンライン配信で実施した。

期 日：2024 年 5 月 21～25 日

場 所：東京大学弥生キャンパス 弥生講堂一条ホール

担 当：東京大学大気海洋研究所

参加者：535 名

講演数：一般発表 148 件（口頭発表 105 件（Zoom ミーティング）、ポスター 43 件）

② 2024 年度秋季大会

授賞式・受賞記念講演および口頭発表、ポスター発表を現地で実施した。授賞式・受賞記念講演は現地開催およびオンライン配信で実施した。

期 日：2024 年 11 月 12～15 日

場 所：つくば国際会議場

担 当：気象研究所

参加者：807 名

講演数：専門分科会 104 件、一般発表 382 件（口頭発表 213 件、ポスター発表 169 件）、合計 486 件

(2) 調査研究会

2024 年度の実施はなかった。

(3) 研究連絡会

研究連絡会は会員の自主的な発議に基づき、理事会の承認を得て設置されており、若干の世話人を中心に運営されている。現在合計 18 の研究連絡会が設置されている。2024 年度は 16 の研究連絡会が合計 23 回の研究会を開催した。

研究連絡会	期日	場所	テーマ
気象学史	2024 年 5 月 18 日	東京都 オンライン	第 15 回気象学史研究会「日本における都市気候研究の展開—都市気候研究における長期気象観測の意義」、会場 20 名、オンライン約 75 名参加。
メソ気象	2024 年 5 月 20 日	東京大学 オンライン	第 57 回メソ気象研究会、若手研究者の視点から見るメソ気象研究の将来展望
惑星大気	2024 年 7 月 22 日	オンライン	第 126 回オンラインセミナー「乾燥大気力学コア上で生じる QBO 的振動の発生要因解明に向けた諸解析」
熱帯気象	2024 年 9 月 17～18 日	東京都立大学	第 15 回熱帯気象研究会
非静力学数値モデル	2024 年 9 月 19～20 日	京都市	第 26 回非静力学モデルワークショップ 参加者 34 名

メソ気象	2024年9月28～29日	松江市	第10回メソ気象セミナー「線状降水帯等の大雨をもたらす線状のメソ降水系の形態と維持機構」
気象学史	2024年10月31日	東京理科大学	見学会「富士山観測—日本気象学の礎を築いた中村精男と和田雄治」
極域・寒冷域	2024年11月12日	秋季大会	北極域の気候・環境変動の要因を探る
統合的陸域圏	2024年11月12日	秋季大会	古気候と現在の地球システムシミュレーション;過去の気候から何がわかるか
オゾン	2024年11月14日	秋季大会	国際オゾンシンポジウム報告と近年のオゾン研究の動向について
気象学史	2024年11月14日	秋季大会	第16回気象学史研究会「数値予報の初期の時代に人はどのように計算をしていたか」
気候形成・変動機構	2024年11月14日	秋季大会	第4回研究連絡会「古気候プロキシ研究と気候科学の融合」
観測システム・予測可能性	2024年11月27～28日	京都大学	東アジア域の異常天候に対する熱帯や北極域からの遠隔影響と活発化する大気海洋相互作用の役割
台風	2024年12月3～4日	熱海市	マイアミ大学 David Nolan 教授, 宮本慶應義塾大学准教授による講演
惑星大気	2025年1月21日	神戸市	WTK/CPS 大気境界層乱流ミニ研究会
長期予報	2025年1月27日	オンライン	長期予報と大気大循環「中緯度大気海洋相互作用」
惑星大気	2025年2月3日	オンライン	第127回オンラインセミナー
航空気象	2025年2月7日	気象庁 オンライン	第19回航空気象研究会「航空気象にかかわる様々な題材」
天気予報	2025年2月16日	東京都 オンライン	第22回天気予報研究会「未来を読む天気予報—AIが描く気象の世界—」
惑星大気	2025年2月20～21日	オンライン	CPS/WTK&ABC ワークショップ「汎惑星気象学・気候学」
国際協力	2025年2月21日	オンライン	気象・気候分野における国際協力としての日本への留学生の受け入れ
計算科学	2025年2月27日	東京都 オンライン	次世代計算基盤に向けた展望
惑星大気	2025年2月27～28日	オンライン	金星大気研究会

(4) 気象研究コンソーシアム

気象研究コンソーシアムは、日本気象学会と気象庁とで締結された包括的な共同研究契約「気象庁データを利用した気象に関する研究」に基づく枠組みである。2024年度は、共同研究契約について打ち合わせをするとともに、申請された課題の採否を審議し、共同研究が適切に進められるようにした。

(5) 他学会との共催等

他学会と共催で、気象学・大気科学に関する研究会やシンポジウム等を実施し、研究成果の公開に努めるとともに、関連分野の研究者との情報交換・情報共有に努めた。2024年度は以下の会合等を開催した。

① 第4回アジア気象会議 (ACM: Asian Conference on Meteorology)

日本170名、中国127名、韓国20名、インドネシア、ベトナム、米国から計13名の参加。340件の講演申込有。

共催：日本気象学会、中国気象学会、韓国気象学会（2024年11月18～20日：つくば国際会議場）

② 日本地球惑星科学連合大会

日本地球惑星科学連合が主催し、気象学会等が協力して、2024年5月26～31日にハイブリッド方式（幕張メッセ+オンライン開催）で開催された。本大会では、気象学会がプログラム委員の選出や、共催セッションを開催した。

③ 防災学術連携体への参画

速報会（2024年9月23日）「2024年夏（秋）の気象災害・要因と対策」に中村尚会員が講演し連携活動を実施した。

④ 第41回エアロゾル科学・技術研究討論会

主催：日本エアロゾル学会（2024年8月20～22日：工学院大学八王子キャンパス）

(6) 支部研究会活動

各支部において年1~4回、地域特有の現象等に関する気象学・大気科学の研究成果の発表会を行い、成果の公開に努めるとともに、研究者間での情報交換・情報共有に努めた。2024年度は以下のとおり実施した。

- ① 北海道支部
ア 第1回研究発表会 2024年7月25日(北海道大学及びオンライン開催)(参加者約40名)
イ 第2回研究発表会 2024年12月4~5日(札幌管区气象台及びオンライン開催)(参加者約130名)
- ② 東北支部 支部気象研究会 2024年12月2日(仙台第3合同庁舎ハイブリッド開催, 発表14題, 参加者約50名)
- ③ 中部支部 支部研究会 2024年11月24~25日(名古屋大学オンライン併用, 発表25題, 参加者76名)
- ④ 関西支部
ア 中国地区支部例会 2024年12月6日(広島合同庁舎ハイブリッド開催, 発表16題, 参加者17名, オンライン25名)
イ 四国地区支部例会 2024年12月13~14日(高知大学ハイブリッド開催, 発表19題, 参加者38名, オンライン10名)
ウ 近畿地区支部例会 2024年12月15~16日(大阪管区气象台ハイブリッド開催, 発表17題, 参加者60名, オンライン60名)
- ⑤ 九州支部 支部発表会 2025年3月2日(九州大学ハイブリッド開催) ジュニアセッションと合わせて開催
- ⑥ 沖縄支部 支部研究発表会 2025年2月27日(沖縄气象台ハイブリッド開催)

(7) その他

- ① 日本気象学会夏期特別セミナー(若手会 気象夏の学校)開催への援助

本セミナーは、若手研究者の研究発表の実施並びに最先端の研究を行う気象研究者による講演を行うことにより、若手研究者相互の交流や研究意識を高めることを目的としており、日本気象学会が援助を行っている。2024年度は、以下のとおり開催した。

- ・日付: 2024年8月31日~9月2日
- ・場所: 滋賀県
- ・内容等: 合宿形式で実施する予定であったが、台風10号の接近が予想されたためオンライン形式で開催した。学生による一般講演(口頭34件, ポスター101件, うち4名は欠席)

なお、2024年度には、「気象夏の学校開催支援寄附金」を募集し合計396,000円の寄付があった。

2. 一般向け普及・啓発活動

(1) 公開気象講演会

公開気象講演会は、教育と普及委員会が中心となって、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果を分かりやすく解説することを目的として開催している。2024年度は以下のとおり開催した。

- ・日付: 2024年11月17日
- ・場所: オンライン開催
- ・テーマ: 気象を通じて社会に貢献する
- ・参加者: 約250名

(2) 第58回夏季大学

夏季大学は、最新の気象学の知識の普及を目的に、小中高校の教職員や、気象の愛好家を対象とした、やや専門性の高い講座で、教育と普及委員会が中心となって毎年度開催している。2024年度は「高温・熱波」をテーマに以下のとおり開催した。

- ・日付: 2024年7月27~28日
- ・場所: 気象庁講堂とオンラインのハイブリッド開催
- ・参加者: 1日目現地34名, オンライン139名, 2日目現地28名, オンライン141名。

(3) 気象サイエンスカフェ

気象サイエンスカフェは、日本気象学会と日本気象予報士会が共催する「気象の専門家や有識者」と「その話を聴いたり話したりしてみたい方」との科学コミュニケーションの場として、2006年春に東京でスタートした。現在は各支部を中心に全国各地で開催している。2024年度の開催状況は以下のとおりである。また、同様の活動は(6)で示すように、各支部においても実施している。

- ① 2024年5月19日, 場所: みなと科学館(Web併用), さまざまな人工衛星で観測される台風, 会場39名, オンライン約100名。
- ② 2024年8月25日, 場所: みなと科学館(Web併用), 地球温暖化と台風, 会場30名, オンライン82名。
- ③ 2024年10月14日, 場所: みなと科学館(Web併用), 金星の気象の不思議, 会場21名, オンライン90名
- ④ 2025年1月19日, 場所: みなと科学館(Web併用), 船で最強寒波とJPCZに挑む, 会場30名, オンライン

ン100名。

(4) ジュニアセッションの開催

ジュニアセッションは、気象学に興味を持つ主に高校生・高専生（中学生も可）を対象に、生徒達が気象学会の大会会場において専門家の前で発表体験をすることにより生徒達の気象学に対する興味や探究心が高まり、学会としての社会貢献にとどまらず将来の気象学の発展とより豊かな社会の招来に繋がることを期待して開催している。2024年度は、以下のとおり実施した。なお、本事業は小倉義光・正子基金により実施している。

- ・日付：2024年5月25日
- ・場所：オンライン開催
- ・参加校数、発表件数：18校、22件、生徒数56名

(5) 先生のための気象教育セミナー

気象に関する教育支援を目的に「先生のための気象教育セミナー」を開催した。なお、本事業は小倉義光・正子基金から資金補助を受けて実施した。

- ・日付：2025年1月12日
- ・場所：港区立みなと科学館
- ・参加者：中学校・高等学校教員
- ・テーマ：身近な材料を使った実験教室

(6) 支部普及活動

各支部において、それぞれの地域の実情に応じて、「気象講演会」、「サイエンスカフェ」、「ジュニアセッション」、「こども気象学教室」、「離島お天気教室」等、一般市民並びに子供を対象に普及活動に努めている。2024年度は以下の活動を実施した。

支部	活動	日付	場所	内容	参加者
北海道	気象講演会	2024年7月7日	北海道大学	GEWEX-OSC（全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議）における市民向け公開講座の後援	
		2024年8月26日	札幌市	令和6年度北海道防災気象講演会「火山活動と防災対策を知る」（札幌管区気象台主催）の後援	
		2024年11月14日	札幌市	「北の気象講演会～気候変動時代をむかえて、私たちは風水害にどう向き合うか～」（日本気象協会北海道支社 主催）の後援	会場90名、 オンライン 130名
		2024年12月20日	札幌市	シンポジウム「北海道気候変動影響研究シンポジウム」（道総研など 主催）の後援	
東北	気象講演会	2024年11月2日	山形市	極端化・頻発化する山形県の豪雨と防災対応・避難行動	約50名
	サイエンスカフェ	2024年12月21日	仙台市	線状降水帯を知る、シミュレーションにトライする	25名
中部	気象講座	2025年1月19日	名古屋市	第27回公開気象講座、「気象衛星ひまわりと地球観測の最前線」	128名
	サイエンスカフェ	2024年11月3日	名古屋市	第27回サイエンスカフェ「台風について～台風のタイプと解析について～」	43名
	サイエンスカフェ	2025年2月16日	名古屋市	第28回サイエンスカフェ in 名古屋、「雲上の世界と山岳気象」	43名
関西	夏季大学	2024年8月24日	オンライン	第45回夏季大学「新しい気象観測」	130名
	講演会	2024年12月6日	広島市 オンライン	「気候危機：異常気象がニューノーマルに、春と秋が消え「二季」になぜ??」	42名
	講演会	2024年12月13～14日	高知市 オンライン	台風予測と観測の最新動向：AI技術、航空機観測、温暖化影響	48名
	講演会	2024年12月15～16日	大阪市 オンライン	文理融合分野における気象教育・研究への挑戦—気象とデータサイエンスの関係についての考察—	120名
	サイエンスカフェ	2025年2月15日	大阪市	“気象”の道を進むあなたへ～研究か就職か？大学院生が語る進路選択～	

九州	気象教室	2024年12月1日	福岡市 ワライン	第25回気象教室「雲・降水～気象観測がとらえる雲と雨のリアル～」	会場5名 ワライン41名
	サイエンスカフェ	2025年2月31日	福岡市	梅雨期の降水～東シナ海の黒潮の知られざる役割～	約15名
	ジュニアセッション	2025年3月2日	春日市 ワライン	高校生および中学生が課外活動の理科クラブや探究活動などで行った気象に関する調査や研究などの成果を発表する。	会場29名、ワライン15名
沖縄	親と子のお天気教室	2024年8月1日	糸満市	糸満市主催の教室の後援	174名
	「子ども気象学土」教室	2024年8月5～7日	那覇市	気象台職員及び部外講師（気象アナウンサー）、支部理事による講話、気象・地震実験、露場見学	小学生26名、保護者14名
	離島お天気教室	2024年11月7日	多良間島	実験（大気圧、竜巻発生、空気砲）と講話「台風のお話」	小学生41名
	離島お天気教室	2024年12月19日	北大東島	実験（ペットボトルで雲を作ろう、二酸化炭素は海水に溶ける？、竜巻発生、雨量計）と講話「北大東の天気と危険を知らせてくれる雲について」	小学生40名、中学生15名
	サイエンスカフェ（共催）	2024年11月30日	那覇市	・テーマ「気候変動の現状と気象データを用いた適応の最前線」	48名

(8) その他

①気象予報士CPD制度の支援

2016年度から、気象予報士の気象技能の継続的な研鑽を目的としたCPD（Continuing Professional Development）制度を支援するため、日本気象予報士会のCPD認定委員会に気象学会から委員3名を派遣している。

②教育活動の拡充（関西支部）

関西支部ではホームページ上に大学、大学院の紹介、気象予報士資格を生かすことができる就職種の紹介、気象庁職員採用の案内を掲載するとともに、2024年8月24日開催の夏季大学にあわせて、大学、気象予報士会、大阪管区気象台が参加し、オンライン形式による「気象関係合同進路説明会」を開催し、説明と個別の進路相談を実施した。

II 機関誌その他気象学・大気科学等に関する図書等の刊行事業の実施（公益目的事業2）

気象学・大気科学に関する研究成果や最新の知見を、刊行物によって社会に公表することを通じて、学術及び科学技術の振興と発展を図っている。2024年度は、以下の1～4の4種類の図書の刊行を行った。

1. 機関誌「天気」の刊行

「天気」は、和文の査読つき論文、気象学・大気科学に関する解説、学術集会の報告、その他日本気象学会や関連学会等の情報などを掲載した月刊の機関誌である。編集作業等は、全国の会員40名で構成された天気編集委員会が担当している。2024年度は「第71巻4号～第72巻3号 計586ページ」を刊行した。なお、第71巻第1号より一般会員には電磁的方法により提供し、希望者のみに冊子体を有償で配布している。

2. 英文論文誌「気象集誌」の刊行

「気象集誌（Journal of the Meteorological Society of Japan）」は、英文の査読つきオリジナル論文及びレビュー論文のみを掲載する隔月刊の論文誌である。編集作業等は、海外の研究者を含む38名で構成された気象集誌編集委員会が担当している。

2024年度は「第102巻2号～第103巻1号 計680ページ、論文34編」を刊行した。また、2026年Springer出版移行に先立ち、2024年12月に現行投稿システムでの受付を停止した。2025年1月以降の投稿論文は同社システム内で審査され、受理された論文は2026年以降にSpringerより出版される。なお、2024年12月までに投稿された論文は引き続き現行システムにて審査され、受理された論文は2025年中にJ-STAGEにより出版される予定である。

3. 英文レター誌「SOLA」の刊行

「SOLA」は、速報性を重視したWeb上（電子版）のみで公開する英文の査読つき電子ジャーナル論文誌である。速報性を重視しているため、1編の英単語数の上限を3100語（約8ページ程度）としている。編集作業等は、海外の研究者を含む50名で構成されたSOLA編集委員会が担当している。2024年度は「第20巻、第21巻、特

別号の第20A巻、第20B巻、計369ページ 論文47編」を刊行した。

2026年 Springer 出版移行に先立ち、2025年8月に現行投稿システムでの受付を停止する。2025年9月以降の投稿論文は同社システム内で審査され、受理された論文は2026年以降に Springer より出版される。なお、2025年8月までに投稿された論文は引き続き現行システムにて審査され、受理された論文は2025年中に J-STAGE により出版される予定である。

4. 「気象研究ノート」の刊行

「気象研究ノート」は気象学・大気科学の最新の知見や技術について、テーマごとに詳細に解説を掲載した不定期刊行の学術誌である。編集作業等は、委員11名で構成された気象研究ノート編集委員会が担当している。

2024年度は、249号「令和元年房総半島台風と東日本台風」を刊行した。

III 研究の奨励、援助および研究業績の表彰事業の実施（公益目的事業3）

学術及び科学技術の振興及び発展を図ることを目的に、気象学・大気科学に関する個人又はグループの優秀な研究・教育・普及活動等の業績を顕彰している。

また、若手研究者を対象に、国外での学術研究集会への参加に際しての旅費等の援助を行うとともに、我が国で開催する学術研究集会への国外からの参加を促すために、旅費等の支援を実施している。これらの活動を行うことにより、国際学術交流を推進している。

1. 研究業績の表彰

(1) 日本気象学会の表彰

日本気象学会では、日本気象学会賞、藤原賞、岸保・立平賞、堀内賞、正野賞、山本賞、小倉奨励賞、松野賞の8つの賞を設け、気象学・大気科学の多様な分野と学生を含む幅広い世代の優れた研究者を顕彰し、奨励事業の拡充を図っている。それぞれの賞では、候補者推薦委員会より推薦された候補者について、理事全員の投票により受賞者を決定している。

このほか、気象集誌論文賞と SOLA 論文賞は、それぞれの編集委員会が決定している。2024年度は以下の通り顕彰を実施した。

賞	受賞者	業績又は対象論文
日本気象学会賞	日下博幸（筑波大学計算科学研究センター）	都市気象・気候と局地気象に関する現象メカニズムの解明と数値モデルの高度化
藤原賞	村上正隆（横浜国立大学）	降水過程の基礎研究およびそれに基づいた人工降雨雪の開発研究
岸保・立平賞	該当者なし	
堀内賞	亀卦川幸浩（明星大学理工学部）	空調の排熱が引き起こす都市の高温化を加速するメカニズムのモデル化とその応用
	山田 朋人（北海道大学大学院工学研究院）	アンサンブル気候モデルを用いた大気陸面相互作用の解明と河川氾濫リスクの分析
正野賞	竹村和人（気象庁大気海洋部）	夏季アジアジェット上を伝播するロスビー波束の増幅に伴う遠隔結合と天候への影響の研究
	ドアン グアン ヴァン（筑波大学計算科学研究センター）	都市が熱帯地域の局地気候に与える影響及び都市気候変動に関する研究
山本賞	青木俊輔（宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門 地球観測研究センター）	熱帯沿岸域降水の日周期変化特性に及ぼす下層風の影響に関する研究
	宮本歩（カリフォルニア大学サンディエゴ校・スクリプス海洋研究所）	カリフォルニア沖下層雲が太平洋の気候に与える影響に関する研究
小倉奨励賞	太田佳似（一般社団法人日本気象予報士会）	鳥類の生態に及ぼす気象の影響についての調査研究
松野賞	阿隅杏珠（東京大学）	再解析データを用いた MY28 グローバルダストストーム(GDS) 発生時の冬極域昇温に関する研究
	工藤陽花（岡山理科大学）	霧を伴う局地風「肱川あらし」の AI 予報の開発
	関戸大登（東京大学）	長期全中層大気再解析データを用いた準2日波と4日波の季節変化のメカニズムの研究
	中 七海（京都大学）	日本の夏期における降水量と MAUL の関連性に関する解析
	原 一城（岡山理科大学）	放射霧の統計的環境場の違い
	藤野梨紗子（慶応義塾大学）	気象化学モデルを用いたエアロゾル湿性除去量の定量化
	赤見彰一（筑波大学）	ベイズ最適化による局所粒子フィルタのパラメータ推定
	浅井颯馬（北海道大学）	マルチグリッド法の導入による SCALE モデルの雷モデルの高速化

	朝妻勇貴 (筑波大学)	冬季における亜熱帯ジェット上の波列に対する北大西洋振動と熱帯インド洋-西太平洋の対流活動の複合影響
	安倍啓貴 (筑波大学)	さまざまな気圧配置における六甲おろしの三次元構造
	伊與田光騎 (富山県立大学)	全天候型ドローンを用いて観測した降水粒子画像の解析手法
	岩井直太 (北海道大学)	数値モデルを用いた航空機被雷危険領域の早期予測情報提供可能へ向けた試み
	上野和雅 (東京大学)	雲粒衝突併合過程の計算における量子コンピュータ活用
	上好 慧 (富山大学)	2種類の対流結合西進慣性重力波の存在について
	大野哲弥 (筑波大学)	寿都だしの気候学的特徴と3次元構造
	小田凱翔 (九州大学)	中部日本・西日本に大雨をもたらす梅雨期メソ対流系の組織化形態
	小原慧一 (名古屋大学)	高周波マイクロ波放射計と雲レーダの複合利用による熱帯対流雲の雲水量・有効粒径推定
	後藤悠介 (名古屋大学)	地上X帯レーダの鉛直観測を利用した雨滴粒径分布の推定
	小畑佑介 (九州大学)	福岡平野周辺における夏季積乱雲の発生環境場
	坂本 律 (新潟大学)	熱帯インド洋におけるClimatological ISOの維持メカニズム
	杉山玄己 (北海道大学)	小型衛星からの近赤外多波長撮像観測による水蒸気量の推定手法の開発
	鈴木信康 (筑波大学)	寒候期に発生する房総不連続線の移動メカニズム
	高島 亮 (筑波大学)	日本の都市におけるLocal Climate Zoneマップの作成
	田村望海 (名古屋大学)	台風の眼内部のドロップゾンデ同化による内部構造の再現性改善
	中井 大 (京都工芸繊維大学)	デジタルホログラフィによるエアロゾル粒子の3次元高速度イメージングおよび衝突観測
	中田英太郎 (北海道大学)	台風に対する海面水温応答についての人工衛星観測プロダクト間の比較
	濱田慧治 (富山大学)	静止気象衛星ひまわり地球周縁部観測を用いた中層大気オゾンの検出
	日置真太郎 (富山大学)	太平洋ITCZにおける対流活発域の季節進行に伴う東西移動
	平岩 純 (東京大学)	地球温暖化時の熱帯太平洋東西SST勾配の変化に関する理論的考察
	平田 憲 (University of Colorado Boulder)	地上観測と高解像度大気モデルに基づいた浅い対流雲近傍のエアロゾル直接放射効果の評価
	藤井省伍 (九州大学)	気候モデルによる極域の海塩エアロゾルのシミュレーション
	堀口明友美 (気象大学校)	UAS搭載用小型測器を用いた低コスト係留気球観測手法の検討
	前田優樹 (東京大学)	深層学習を用いた北半球夏季季節内振動(BSISO)の予測と要因分析
	眞砂海斗 (京都大学)	ドローンを用いた斜面冷気流の観測(2)
	松本 現 (筑波大学)	人工芝グラウンドにおける暑熱環境評価
	溝渕隼也 (千葉大学)	MAX-DOAS法による大気下層水蒸気濃度の水平不均一性の長期連続観測
	武藤真璃 (お茶の水女子大学)	熱帯中緯度境界線とジェット気流の変動が日本の春季降雨に及ぼす影響
	Yifan Li (東京大学)	Evaluation of the Isotope-enabled Fully Coupled Model MIROC6-iso
	若尾和哉 (北海道大学)	水蒸気輸送を担う大気循環場の出現頻度が九州地方で発生する停滞性の強雨の経年変動に与える影響
気象集誌論文賞	Le DUC, 澤田 洋平	Le DUC and Yohei SAWADA “Geometry of rainfall ensemble means: From arithmetic averages to Gaussian-Hellinger barycenters in unbalanced optimal transport.” <i>J. Meteor. Soc. Japan</i> , Vol. 102, No. 1, 35-47 (2024) https://doi.org/10.2151/jmsj.2024-003
	高坂裕貴, 古林慎哉, 原田やよい, 小林ちあき, 直江寛明, 吉本 浩, 原田 昌, 後藤尚親, 千葉丈太郎, 宮岡健吾, 関口亮平, 出牛 真, 釜堀弘隆, 仲江川敏之, 田中泰宙, 徳広貴之, 佐藤芳昭, 松下泰広, 大野木和敏	Yuki KOSAKA, Shinya KOBAYASHI, Yayoi HARADA, Chiaki KOBAYASHI, Hiroaki NAOE, Koichi YOSHIMOTO, Masashi HARADA, Naochika GOTO, Jotaro CHIBA, Kengo MIYAOKA, Ryohei SEKIGUCHI, Makoto DEUSHI, Hirotaka KAMAHORI, Tosiyuki NAKAEGAWA, Taichu Y. TANAKA, Takayuki TOKUHIRO, Yoshiaki SATO, Yasuhiro MATSUSHITA, and Kazutoshi ONOGI “The JRA-3Q reanalysis.” <i>J. Meteor. Soc. Japan</i> , Vol. 102, No. 1, 49-109 (2024) https://doi.org/10.2151/jmsj.2024-004
SOLA 論文賞	澤田 洋平	Yohei Sawada “Ensemble Kalman Filter Meets Model Predictive Control in Chaotic Systems.” <i>SOLA</i> , Vol. 20, pp. 400-407, doi:10.2151/sola.2024-053,

(2) 支部における顕彰

北海道支部では、会員の研究の奨励推進の一環として、支部における活動で業績のあったものや支部研究発表会で優れた講演をおこなったものを顕彰している。2024年度は以下のとおり、7名を顕彰した。

受賞者：支部賞 中村誠吾，支部発表賞：小長井佑馬，山本竜也，山田雄斗，三木雄詩，吉田友紀，山根斗和。
東北支部では独自活動の一つとして，支部研究発表会において優れた講演を行った支部会員から，原則として2名程度選び顕彰している。2024年度は以下の通り，2名を顕彰した。

受賞者：支部発表賞 島村優作，菅原海大

中部支部では，若手会員又は研究を本務としない会員で，「気象学の向上に資する研究を行っている」，「気象学の教育・普及活動が特に顕著」，「気象学を応用することにより社会に大きく貢献している」に該当するものを顕彰している。2024年度は以下の通り4名を顕彰した。

受賞者：支部長賞：渡邊翔太，吉川契子，岡田 陸，馬淵慎也

九州支部では独自活動の一つとして，会員で，「気象学の向上に資する研究を行っている」，「気象学の教育・啓発活動を積極的に行っている」，「気象学を応用した活動で社会に貢献している」のいずれかの項目に該当する者を最大で3名選び顕彰している。2024年度は以下の通り，2名を顕彰した。

受賞者：支部奨励賞：島袋 琉，土田 耕。

(3) 部外表彰等受賞候補者の推薦

関係団体等が主宰するいくつかの賞に対して，日本気象学会として候補者を推薦している。部外表彰等候補者推薦委員会が担当している。

2024年度は，渡部雅浩会員が科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞した。

2. 国際学術交流事業への支援・援助

(1) 渡航費の支援

国際学術研究集会等に出席して論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定の者に，申請によって渡航費の補助を行っている。資格は学会員に限定しないが，原則として修士論文提出程度の研究実績を要する者で，他から渡航費の援助を得られない者に限定している。2024年度は2件の国際集会参加補助申請があり，国際学術交流委員会が審査した結果2件とも認められた。

(2) 小倉特別講義

国内で開かれる国際学術研究集会の支援として，小倉義光・正子基金より招聘費等を補助し，国際学術交流委員会のもと組織した実行委員会が「小倉特別講義」を春季大会に併せて実施している。2024年度は秋季大会（つくば市）において，National center for Atmospheric ResearchのClara Deser 教授を招聘して実施した。

IV その他この目的を達成するために必要な事業の実施

1. 会員の異動状況

2024年度の会員の異動状況は下表のとおりである。個人会員，団体会員ともわずかに減少した。

会員種別		会 員 数		増減数
		本年度末 (2025年3月31日)	前年度末 (2024年3月31日)	
個人会員	一般	2,336	2,358	△22
	学生	385	383	2
	高年	256	255	1
	終身	116	105	11
	合計	3,093	3,101	△8
団体会員	団体A	77	80	△3
	団体B	50	50	0
	団体C	21	22	△1
	合計	148	152	△4
賛助会員		23	23	0
名誉会員		17	14	3
計		3,281	3,290	△9

2. 役員の選任及び解任など

2024年度総会で第43期理事20名が選任された。任期は，理事が2024年度総会の日から2026年度総会の日までの2年間，監事が2024年度総会の日から2028年度総会の日までの4年間である。

2024年度末時点の理事及びそれぞれの主担当は以下のとおりである。

氏名	所属	主 担 当
竹見 哲也	京都大学防災研究所教授	理事長（代表理事）
中村 尚	東京大学先端科学技術研究センター教授	副理事長，藤原賞

青柳 暁典	気象庁大気海洋部環境・海洋課	天気編集, 小倉奨励賞候補者推薦
阿部 彩子	東京大学大気海洋研究所・教授	堀内賞候補者推薦
荒川 知子	日本気象予報士会	教育と普及
稲津 将	北海道大学大学院理学研究科教授	SOLA 編集, 岸保・立平賞候補者推薦
猪上 華子	気象庁大気海洋部業務課	会計担当
今田由紀子	東京大学大気海洋研究所・准教授	正野賞候補者推薦
江口 菜穂	九州大学 応用力学研究所・准教授	人材育成・男女共同参画
榎本 剛	京都大学防災研究所教授	気象研究コンソーシアム, 広報
佐藤 正樹	東京大学大気海洋研究所教授	学術
笹川 悠	気象庁情報基盤部数値予報課	庶務担当
杉本 志織	国立研究開発法人海洋研究開発機構・研究員	松野賞候補者推薦
竹村 俊彦	九州大学応用力学研究所教授	山本賞候補者推薦, 地球環境問題
立花 義裕	三重大学大学院生物資源学研究所・教授	気象研究ノート編集
原田やよい	気象庁気象研究所・主任研究官	講演企画
早坂 忠裕	東北大学大学院理学研究科教授	部外表章等候補者推薦, 名誉会員推薦
堀之内 武	北海道大学地球環境科学研究院教授	気象集誌編集
三好 建正	理化学研究所計算科学研究センターチームリーダー	学会賞候補者推薦
渡部 雅浩	東京大学大気海洋研究所教授	国際学術交流

また、監事は、以下のとおりである。

氏名	所属
川瀬 宏明	気象庁気象研究所・主任研究官
吉田 聡	京都大学防災研究所准教授

3. 声明・提言・要請・要望の発出

気象学会の活動に密接不可分な活動等に関連する事案及び依頼機関等のこれまでの活動等並びに今後の活動等において気象学・大気科学との密接な関連性が認められる事案に対して、気象学会の目的を遂行するために声明・提言・要請・要望を発出することとしている。

2024年度は、2025年1月17日に「雇い止め問題アンケートを受けての提言」を発出した。また、2025年3月28日に「アメリカ合衆国における気象学・大気科学の活動削減」に対する声明を発出した。

4. 会議等の開催

(1) 社員総会

全ての個人会員で構成される社員総会は学会の最高の意思決定機関であり、年1回春季大会の期間に開催している。2024年度は、気象庁会議室とオンライン（Zoom Webinar）を併用し開催した。

総会には以下の議案が提案され、議案1から5については、賛成多数で承認された。

- ①審議事項 議案1. 2023年度事業報告
- 議案2. 2023年度決算報告
- 議案3. 2023年度監査報告
- 議案4. 名誉会員の承認について
- 議案5. 第43期役員を選任について
- ②報告事項 報告1. 2024年度事業計画
- 報告2. 2024年度収支予算

(2) 理事会

理事会は原則として2か月に1回開催し、必要に応じみなし決議（定款第36条に基づき、全理事の書面又は電磁的方法による同意が得られた場合）による理事会を開催した。理事20名、監事2名によって理事会を構成しているが、理事長は必要に応じて支部長等の出席を求めて開催することが出来る。2024年度の理事会議題（協議事項）は以下の表のとおりである（定常的な報告事項は省略）。

開催年月日	協議事項	協議の結果
第42期第15回理事会 (2024年4月15日)	1. 第42期第14回理事会議事録の確認	みなし決議で承認
	2. 2023年度事業報告・2023年度決算報告・2023年度監査報告について	〃
	3. 名誉会員の承認について	〃
	4. 第43期役員を選任について	〃
	5. 2024年度総会資料、総会参加票について	〃

第43期第1回理事会 (2024年6月7日)	1. 理事長の選任	全会一致で承認
	2. 副理事長の選任	〃
	3. 業務執行理事の選任	〃
	4. 委員長との選任	〃
第43期第2回理事会 (2024年6月24日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第43期第1回理事会議事録の確認	〃
	3. 2024年度社員総会議事録の確認	〃
	4. 大会実施形態の移行に関するWGの設置	〃
第43期第3回理事会 (2024年8月9日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第43期第2回理事会議事録の確認	〃
	3. 細則における役員選任候補者選出に係る規定の改定	〃
第43期第4回理事会 (2024年10月2日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第43期第3回理事会議事録の確認	〃
第43期第5回理事会 (2024年12月17日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第43期第4回理事会議事録の確認	〃
	3. 気象学会の規程等の改定・制定について	〃
第43期第6回理事会 (2025年1月30日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第43期第5回理事会議事録の確認	〃
	3. 2025年度総会告示、総会参加依頼について	〃
	4. 2025年度事業計画書・収支予算書・資金調達及び設備投資の見込みについて	〃
第43期第7回理事会 (2025年3月10日)	1. 会員の新規加入等について	全会一致で承認
	2. 第43期第6回理事会議事録の確認	〃
	3. 第43期第1回支部長会議の議事概要の確認	〃
	4. 細則における役員選任候補者選出に係る規定の改定および気象集誌の発行形態の変更に伴う改定	〃
	5. 「ジュニア国際学術交流小倉助成規程」の制定について	〃

(3) 支部長会議

公益社団法人移行に伴い、支部からの理事の選任が廃止されたことから、各支部との連携強化を図るため新たに支部長会議を設置した。新たに設置した支部長会議は、理事長・理事・監事・支部長により構成され、原則として年1回、理事長が招集して開催することとしている。

第43期第1回支部長会議

日付：2025年1月30日

議題：2024年度支部活動報告

2025年度支部活動計画

秋季大会の取組・準備状況

(4) 有識者会議

有識者会議は、有識者・理事長・理事・監事によって構成し、理事会の諮問事項を審議する。有識者は諮問事項に適任な方に理事長が委嘱する。2024年度は開催しなかった。

(5) 各種委員会

日本気象学会では23の委員会を設置して、公益目的事業1～3を分担して実施している。

学術委員会では、日本の気象学の現状、研究の進展、今後の展望を網羅的にまとめた「日本の気象学の現状と展望2024」の作成を進め、2025年1月号の「天気」に掲載した。

教育と普及委員会では、高校生以下の生徒の国際学術交流を図るために小倉義光・正子基金を活用した助成制度「ジュニア国際学術交流小倉助成規程」を設けた。

以上